

別記

宣言草案

日本文化は維新を以て、従来の鎖國的態度を大なる開放的進取的な態度に採らざるを得なく、なつて、次第に向エシ現今の文化を築き上げた。而して、その文化は極めて急造であり、模倣であり物質萬能の文化であり、外観上のみ成立つた文化である。そこに便全な主体をなす精神があつた。日本の現在凡百の極みは、絶て茲にある。西政に憧ルアメリカに隨喜した文化が、其の内容を曝露し、破滅して来たのである。今日日本の現狀は非常時を以て更へる事がある。その根本は、日本精神を輕んじ、政米主義に陥入つた弊害であると斷つる事がある。

教育上に、經濟上に、政治上に限りなき不正、官悪を冒しつゝ、あるは單なる制度上の缺陷のみではない。政治に限りなき不正、官悪を冒しつゝ、あるは單なる日本を襲ひつゝ、ある非常時は外患のみではない。これらの内容又非常時と言はなれるはなす存心。此れ等の先服の第一は、實に日本精神の確立にある。昔々の考さんとする心構は茲にあると言はなれるはなす。

日本の急激なる文化の飛進に幾多の矛盾と官悪を承見すると同時に、これら線の添ひて飛進し、経過して来た。日本の労働運動並に農民運動は是また幾多の誤りせ犯して来た。

今工場に、鉱山に、農村に、海上に、幾多失業苦にまた生活苦に悩みつゝ、例ルつゝ、行く同胞に、何等莫算的救済をなし得ないのが、日本の労働運動の現狀である。此の労働組合の真清は、政府、企業家の無関心、無慈悲、彈圧等をもてのみ、日本の労働運動の無力を律するところは出来なかつた。

元來日本の労働運動は労働者自らの要求に依つてなされるものなり、唯物なされ、思想的支配ミル事案が多分にあつた。政米退隨の運動であり、唯物